中学校　音楽　部会

部会長　方城中学校　校長　友松　秀樹
実践者　鷹峰中学校　教諭　萱嶋　恭子

研究主題

「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導と評価」
～鑑賞領域における知覚･感受力を高める支援を通して～

１　主題設定の理由

（１）社会の要請から

平成１９年に一部改正された学校教育法では、義務教育の目標が具体的に示され、さらにその達成に向けて小中学校で育成する学力についても明示された。この学校教育法で示された学校教育で育成する学力は、「基礎的･基本的な知識･技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力･表現力等」「学習意欲」の３つの要素からなる。そして、平成２４年度から実施されている新学習指導要領では、この３つの要素を「確かな学力」として位置づけた。

これらは、以前怒った学力論争や OECD の PISA 調査の課題を受け、２１世紀に生きる子供たちの教育の充実に向け、「生きる力」の主要な柱として、学力の３つの要素を調和的にはぐくむよう中央教育審議会において要請されたものである。

（２）これまでの音楽教育から

学校教育法の義務教育の目標に「生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸、その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと。」とある。これは音楽科の目標である「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」の基となる目標だが、音楽科における教育の目的として「音楽を通して生活を明るく豊かにするため」と明示されている。言い換えれば、音楽の学習内容が､現在や将来において自分の生活に生かすためのものということができる。

しかし、これまでの授業を振り返ると、歌い方や演奏の仕方を教師が範唱奏し、生徒はそれを模倣するだけの活動に終始する傾向があった。また、鑑賞では教師の一方的な楽曲解説の後、楽曲を聴かせ、主観的な感想を書いて終わるという授業も多々あった。音楽の諸記号等についても､結果として知識として覚えさせることが目的となっていた。

これらのことから、音楽科における基礎的な知識や技能を確実に身につけさせ、生涯にわたって生活を明るく豊かにする「確かな学力」を身につけさせるために、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことは大変意義深いといえる。

２　主題の意味

（１）思考力・判断力・表現力等をはぐくむとは

中央教育審議会答申で示された、基礎的・基本的な知識･技能の活用によって思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動であり、具体的には次の内容である。

①体験から感じ取ったことを表現する。

②事実を正確に理解し、伝達する。
③概念・法則･意図などを解釈し、説明したり解釈する。
④情報を分析･評価し、論述する。
⑤課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する。
⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

さらに答申では、思考力･判断力・表現力等の基盤となるのは言語の能力であり、学習活動での学習内容を言語化すること、つまり、学習したことを記録・要約・説明・論述すると行った言語活動の充実が必要であるとしている。

（２）思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導と評価とは

音楽科において、思考力・判断力・表現力等をはぐくむために活用される基礎的・基本的な知識・技能は、新学習指導要領で新に示された「共通事項」が知識であり、「各学年の目標および内容」技能である。

音楽科における思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導とは、［共通事項］イの音楽の要素やそれらの働きを表す用語や記号の理解を支えとしながら、［共通事項］アの音楽の要素や要素同士の関連の知覚と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気の感受を通して、歌唱・器楽・創作の表現活動や鑑賞の内容を思考・判断し、それを技能や批評文等によって具現化することである。

さらに，思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導と評価とは、音楽表現の創意工夫を通して表現の技能を高めたり、鑑賞の能力を高めるための、知覚・感受力をはぐくむ手立てとその達成の状況を見取るための方法と規準である。

（３）鑑賞領域における知覚・漢字力を高める支援とは

知覚は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽の要素や要素同士の関連を識別する能力である。これに対し感受は、音楽の要素や要素同士の関連によって生み出される雰囲気や特質を感性によって感じ取る能力である。

知覚力を高める支援とは、楽曲から音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を分析的に知覚させるための､視聴覚教材の導入やわかりやすい説明・助言の工夫等である。感受力を高める支援とは、感受した楽曲の雰囲気や特質を客観的に言葉にするための語彙の支援であり、言葉で説明したり批評する際のヒントとなる教材の工夫である。

3　研究の目標

鑑賞領域における、説明や批評をするための知覚・感受力を高める支援を通して、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ音楽科学習指導とその達成を見取る適切な評価方法について究明する。

4　研究仮説

鑑賞領域において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受させるために適切な支援を行えば、生徒は主体的に思考・判断し、感じ取ったことや思いを音楽的根拠に基づいて表現できるようになる。また、班や学級全体で交流することによって、自分の考え方をさらに深化させることができる。

5　研究計画（授業計画）

（１）題材名　音楽の情景を想像して聴こう

主教材　連作交響詩『我が祖国』より「ブルタバ」　　（スメタナ作曲）

（２）目標

①　標題音楽の様々な音楽表現に関心を持ち､情景をイメージしながら意欲的に聴く。

②　音楽の場面による曲想の違いを感じ取り、楽器の音色、旋律、強弱のそれぞれの要素から曲の特徴や良さを感じ取る。

③　楽器の音色、旋律、強弱等それぞれの要素が特徴やその要素が絡み合いながら生まれる曲想の特徴をとらえ、曲の持つ良さや聴き取ったことを批評する。

（３）題材の指導計画

時	学習活動	教師の支援	評価規準		評価方法
			関心・意欲・態度	鑑賞の能力	
1	①楽曲の標題による各場面を聴き、曲の雰囲気に合った写真を選択する。 ②Ａ～Ｅの場面を聴きながら楽器の音色、旋律、強弱などを確認する。	○最初の部分を解説しながら情景と曲想が関連していることを感じ取らせる。 ○学習プリントを用い、ブルタバに関連した写真絵画５枚を提示その中から選択させる。 ○楽器の音色、旋律、強弱のそれぞれの要素に着目して理由をしながら聴かせる。	①情景をイメージしながら意欲的に聴いている。	①曲想を感受し、情景をイメージできる。	学習プリント・様相観察
2	①各場面の標題と照らし合わせながら全曲を通して聴く。 ②曲ができた背景や作曲者スメタナについて知る。 ③ブルタバの紹介文をつくる	○ワークシートに記入しながら標題音楽、オーケストラに使われている楽器、音色の特徴を感じ取らせる。 ○チェコの歴史的背景に触れながら曲ができた背景を理解させる。 ○紹介文の形で感じ取った曲の良さをまとめる。	②曲の背景やオーケストラの楽器や音色などに関心を持って聴こうとしている。	②曲の良さ、作曲者の思い、時代背景などを理解し、紹介文を書く事ができる。	学習プリント・様相観察 紹介文

6　指導の実際

（１）本時の主眼

音楽の特徴を感じ取り、情景を想像して聴こう。

（２）本時の指導観

「ブルタバ」は各標題の曲想とその変化がわかりやすく、要素や構造と曲想との関わりを理解し、美しい旋律や豊かなチェコの自然や伝説を描いているため、チェコの自由と平和へのスメタナの思いも音楽から感じ取ることができる楽曲である。

そこで、「ブルタバ」の大きな特徴である各場面の音楽と情景が関連していることを感じ取らせる。その情景を感じ取った曲想の理由を楽器の音色、旋律、強弱などの要素に着目して考えさせる。情景と曲想の関連を理由付けを意見交換し、他の人の意見を聞いて自分の根拠の理由付けを深めていかせたい。

（３）準備

鑑賞用ＣＤ、学習プリント、写真（絵画）５枚、音楽の要素カード

（４）展開

	学習内容・活動	指導上の留意点	形態	評価
	１．学習のめあて、内容を確認する		一斉	
	音楽の表現している情景を想像して聴こう			
				関①
	２．「ブルタバ」の標題による各場面を聴き、曲の雰囲気に　合った写真（絵画）を個人で選択する。 A 夜のブルタバ B ビシェフラト C 踊り D ブルタバの主題 E 急流	○源流から流れ出す主題をフルートで奏され，様々な楽器が加わりながら川幅がだんだん広がっている様子を表現していることを確認し、情景と曲想が関連していることを感じ取らせる。 ○学習プリントを使い、ブルタバに関連した写真（絵画）５枚を提示し，その中から記号で選択させる。 ○各場面はアトランダムに聴かせる。	個	
	３．なぜその写真を選択したか、理由を書く。	○楽器の音色、旋律、強弱のそれぞれの要素に着目しながら聴き、どのような要素の特徴から写真を選択したかを書かせる。	個	鑑①
	４．班になり、なぜその写真を選択したか意見交換する。	○友だちの意見に気づかせる。	班	
	５．Ａ～Ｅの場面を聴きながら、楽器の音色、旋律、強弱などについて確認する。	○音楽の諸要素を聴きながら確認し、理解させる。	一斉	

７　研究のまとめ

本題材において，思考力・判断力・表現力をはぐくむために、次のような知覚・感受力を高める支援を行った。

（１）要素を知覚するための支援

「ブルタバ」は、何気なく耳にすることの多い楽曲である。どこかで聴いたことのあるこの楽曲を今回、音楽の要素の特徴を意識して鑑賞させるために、特に旋律から様々な川や風景、踊りなど場面を写真（絵画）を用いて想起させた。言葉で情景を書くことは難しいと感じる生徒も音楽と写真（絵画）を結びつけることは容易にでき、なぜそう感じるかその根拠をはっきりすることができた。また、オーケストラによる多彩な響きや音色、強弱の変化を感じ取ることで情景と曲想の関連の理由付けの根拠を図ることができた。

また、チェコの時代的背景を知ることで、作曲者の祖国への思いを理解し、紹介文を作成する場面では、その思いを紹介文に書く生徒の姿が見られた。

（２）感受した内容を言葉にし、思考を広げる支援

感想を書くのが苦手だという生徒は鑑賞を嫌だと感じている。そこで、最初は写真（絵画）などで自由にイメージさせ、発表させ受け入れる。曲想や音楽要素を感受していると思われる生徒には、なぜそう感じているのか質問し、よく聴くことができていることをほめる。考えを出し合えたり発表できる雰囲気をつくることが大事だと考える。その後は、個人の考えを班へ、全体へと学習形態を広げていくことで思考の広がりをめざした。自分の考えを交流する活動は、意見が採り上げられる喜びや自分とは違う価値観に出あえる楽しさがある。しかし、その中には互いを受け入れる人間関係が大事である。交流が活発に行える班や行えなかった班もあり、交流するとことの難しさを感じた。他の班員に遠慮して自分の意見を出せない生徒や他の班員が言ってくれているのでいいと他人任せになっている生徒も何人か見られた。

８　成果と課題

（１）成果

○音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚するために，楽曲の各場面にポイントをしぼって繰り返し聴く活動は、生徒の能動的な鑑賞を促すために有効であった。

○感受した特徴や曲想と音楽の諸要素の働きについて考えさせる場面で「音楽の要素カード」を提示したことは効果的であった。

○学習のまとめとしての紹介文を書く活動は、感受した楽曲の魅力や「自分の好きなところ」を，知覚した音楽の要素の特徴に基づいて多くの生徒において記述されていた。

（２）課題

○自分の考えやイメージを交流する場面については、表現活動や鑑賞活動の中でも継続して取り入れていき,人間関係を構築してコミュニケーション力を育てていく必要がある。

○音楽の諸要素の働きについては、表現活動にも生かせるような工夫をしていきたいと思う。

○参考文献

・文部科学省　「中学校学習指導要領解説　音楽編」　平成２０年　教育芸術社

・文部科学省　「中央教育審議会平成２０年答申」　平成２０年　文部科学省ＨＰ

・大槻修一編著　「 新編　これからの中学校音楽ここがポイント」　平成２３年　音楽之友社